

祝日・山の日に811m矢筈岳(日高川町)へ登頂

下見山行

◇実施日；平成28年08月03日(水) 快晴

◇参加者；山上皓一郎、川島 功、梶野照雄。 3名。

国民の祝日・山の日に登頂

◇実施日；平成28年08月11日(木・祝) 快晴

◇参加者；川島 功、生熊千満子、奥村順夫、高階美根子

竹中卓治、舟瀬 薨、湯川一郎。 7名。

国民の祝日・山の日は、日本山岳会等の働きかけにより、平成26年に制定され、平成28年から施行される事になった。

日本山岳会所属の山上さんから山の日に、山彦ぐるーぷも企画する様に提起がある。

そこで川島代表が祝日日付のゴロあわせで、標高811mの山を調べたところ、日高川町に811.1mの矢筈岳(三等)があり、山の日の施行を記念して山行が企画された。

実施に当り、8月3日、3名(山上・川島・梶野)が下見を実施した。



林道からの矢筈岳登山口 矢筈岳山頂

帰路・林道にて(写真・梶野)

当日は、事前に川島代表から、那智勝浦及び尾鷲からの参加者は6名、林道鷲の川線入口を9時出発とお聞きしていたことから、彦根を朝5時に発った。

林道入口上流の鷲の川アマゴ釣り場に8時42分に到着、携帯電話に川島代表からの着信履歴があることに気づき、折り返し電話を掛けると、すでに林道登山口の路側に到着しているとのことで、アマゴ釣り場から戻り合流。

8時55分に出発、落石で荒れた狭い川沿いの林道を歩き始める。以前は車の乗り入れが可能であったが、間伐・植林作業が終了(平成27年3月頃)し、道路の手入れがされなくなったようだ。

林道奥の木橋を渡る地点に登山口の標識があり、木橋渡った小谷傍の登山口には9時48分着。ここから尾根に取り付くが木製階段の急登が続く事から小休止、植林帯と小谷が傍にあり、直射陽が遮られ、涼しく感じる。



登山口で山行準備



橋を渡った小沢傍



木製階段を終えた尾根

奥村さんは久々の登山のようで、調子に合わせてゆっくり登る。幸い、植林帯なので、直射陽が遮られ、時折植林帯を吹き抜ける風に助けられ、熱中症にならない様に水補給。

何度か休憩を取りながら尾根の丁字路に出る。左に折れ、岩交

じりの雑木の根が露出した急登の後、奥村さんから皆に先行してもらいたいとの言葉があり、別れて登り始める。

矢筈岳の東峰(810m)に着く、稜線を吹き抜ける風が心地良い。シヤクナゲの木が現れ、そこからは岩稜の上り下りとなるが、10分余りで三等三角点の矢筈岳山頂(811.1m)に11時49分到着した。



山頂近くの岩稜尾根



811m 矢筈岳山頂



早速、沖崎氏作製の山頂標識を矢筈岳傍のバベの木に設置する。矢筈岳の山頂からは、足下に蛇行する日高川から紀伊水道までが望まれた。本日、唯一出会った奈良県橿原市から来たという登山者に全員の写真を撮ってもらい、川島代表が当ぐるーぷのPRをされる。

昼食では、生熊さんから重いのに全員に冷たいジュースを頂いたくが、酷暑で食が進まない様である。

奥村さんの携帯に電話をすると、どうやら東峰まで来ている様子だ。昼食後、再度電話を入れると、引き返した奈良の登山者から山頂の状況を聞き、すでに下山を開始したとのことであり、我々も追って山道を下ったが、こんな急な山道・階段を登ったのかと思いつつ下山する。

登山口の水場に戻ると奥村さんが待っており、休憩後の13時43分、皆で林道を歩き始めた。一番暑い時間帯で汗が吹き出る。

途中、林道からロープの張った山径を下り、鷲の川の滝前の太鼓橋から滝を眺め、14時30分に登山口に到着した。



木橋を渡って下山

鷲の川の滝前にて

祠前に無事下山

帰路、道の駅・龍遊館に立ち寄り、15時38分に解散となる。尾鷲組とは宮井大橋で別れ、川島車と湯川車は、新宮の沖崎宅に17時10分到着、本日の山行報告後、帰宅した。(湯川記)

行動タイム

新宮6:30→8:45林道鷲の川線登山口(150m)8:55→9:48矢筈岳登山口(380m)9:55→11:49矢筈岳(811.1m)12:25→13:30矢筈岳登山口13:43→14:15鷲の川の滝14:25→14:30林道鷲の川線入口14:36→15:20道の駅龍遊館15:38→17:10新宮。(括弧内は標高)



